

麦作技術情報 No. 3

令和8年3月13日
鳥取県産米改良協会

令和8年産(令和7年11月7日農試場内播種)はるさやかは、積雪の影響で葉齢の進展が停滞した期間があったものの、初期生育が旺盛で積雪後に気温が上昇したことで、3月13日時点の止葉葉耳間長による出穂予測日は3月28日となった。今年度は、過去4年平均による平年播種日(11月11日播種)と比較してやや早い播種日であり、現時点でやや早い出穂予測日を見込んでいるが、以降の高温により生育進展がさらに早まる可能性もあるので、病虫害防除等の適期を逃さないようほ場を観察し、管理を徹底することが重要である。

■病虫害防除

- ・ほ場ごとに出穂期に応じて適期防除を行う。
- ・赤かび病の発病によって、収量や品質が低下するばかりでなく、人や家畜に有毒なかび毒を発生するため、予防防除を徹底するよう努める。
- ・オオムギ網斑病の病勢が進展する時期であるため、発生を見たら、適期防除に努める。
- ・コムギ黄斑病は早期発見に努め、状況に応じた対応を行う。今年度の発生は少ない様子だが、特に前年産小麦において本病が多発生したほ場や連作ほ場では、発生状況に注意する。

■排水対策

- ・湿害は出穂後の登熟に悪影響を及ぼす。特に登熟に大きな役割を果たす麦の細根の発達を阻害し、登熟不良の原因となる。
- ・排水路の点検等を定期的に行い、明渠と排水路をつなぎ、表面水が速やかに排水されるように努め、湿害を受けない環境を作ることが重要である。

【現在までの気象経過】

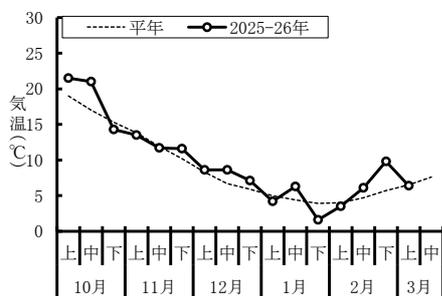


図1 2025-26年日平均気温(倉吉)

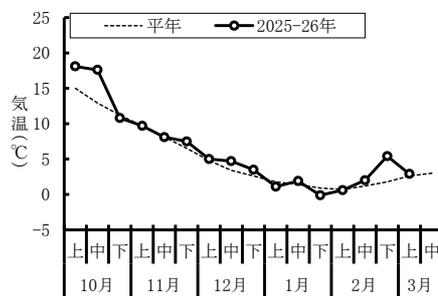


図2 2025-26年日最低気温(倉吉)

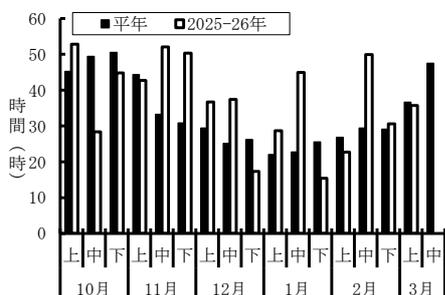


図3 2025-26年旬別日照時間(倉吉)

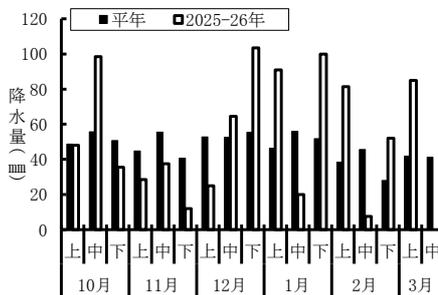


図4 2025-26年旬別降水量(倉吉)

1月中旬までは気温が概ね平年並からやや高い傾向が続き、1月下旬に降雪を伴った低温の時期があった。1月下旬から2月上旬に降雪が多くなったものの、以外の期間の降雪は平年と比較して少なかった。2月下旬以降は降水が多い期間もあったが、日照時間が平年からやや上回る期間も多かった。

I 気象予報

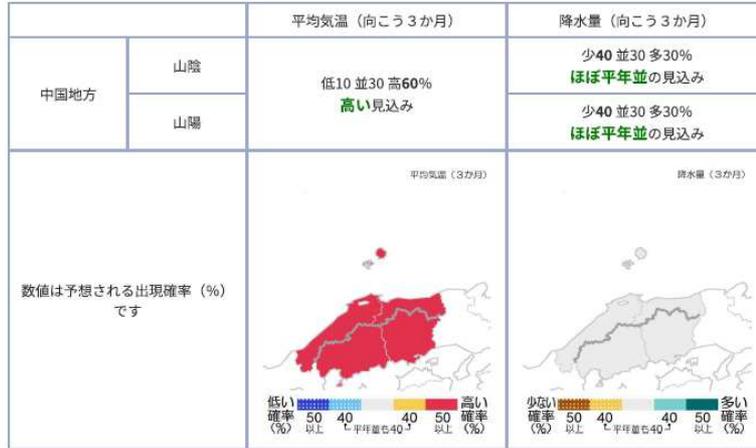
3か月予報（2026年2月24日発表）の解説 広島地方気象台

向こう3か月の天候の見通し 中国地方（3月～5月）

予報のポイント

- 向こう3か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、高いでしょう。

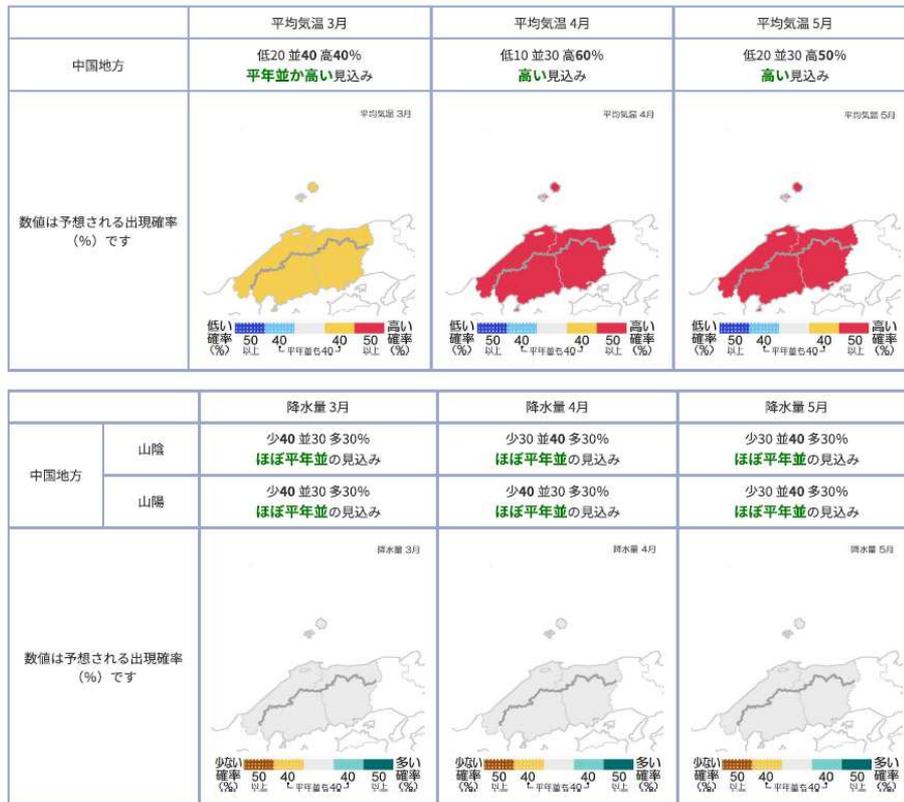
向こう3か月の平均気温・降水量



月別の天候

3月	<ul style="list-style-type: none"> 山陰では、天気は数日の周期で変わるとでしょう。山陽では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
4月	<ul style="list-style-type: none"> 天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
5月	<ul style="list-style-type: none"> 天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

月別の平均気温・降水量



II 「はるさやか」(二条大麦)の生育概況

【現地ほ場】

- ・播種の遅れが見られたものの、全般的に生育は順調で、一部で湿害等による生育不良が見られるが分けつは確保されている。特記すべき病害虫の発生は見られていない。
- ・倉吉市及び北栄町における11月上旬播種の「はるさやか」は、3月9日時点の出穂期予測結果が3月25日の予測となっており、平年と比較してやや早い状況である。

【農業試験場生育観測ほ場】

- ・農業試験場11月7日播種「はるさやか」は、3月9日時点で主稈葉数9葉程度となっており、過去4年の累年平均値と比較すると、進展は並である。2月19日時点での節間長は15.6mmであるため、茎立期は2月下旬と推測され、2月27日時点では40.1mmとなったが、前年(11月11日播)と比較して茎立期の到達が早い状況であった。今後の高温によって生育進捗がさらに早まる可能性がある。播種後約4か月の生育量については、平年に比べて草丈が高いものの、茎数は並であり、葉色は平年よりやや淡い状況である。

表 ビール麦「はるさやか」の生育状況(播種後4か月:3月上中旬)

項目	R4年産	R5年産	R6年産	R7年産	R8年産	過去平均比(差)
茎数/m ²	791	954	1109	1139	955	96
草丈cm	17.0	25.2	45.0	21.5	30.0	110
葉色SPAD	51.8	51.9	41.6	49.0	43.9	90
葉齢	8.0	9.9	9.8	6.9	8.5	0

※R8年産はごんべえ播きであるため、参考値

表 ビール麦「はるさやか」における過去の出穂期(農業試験場内11月上旬播種)

年次 (産年)	出穂期 月日
R4年産	4月11日
R5年産	3月23日
R6年産	3月30日
R7年産	4月5日
過去4年平均	3月26日

※R4,7年産は11月中旬播種のため平均値より除外。

III 技術対策

1 排水対策

- ・登熟期の湿害は収量や品質に悪影響を及ぼす。
- ・大麦の等級が低下する格付理由は、充実が劣る等の場合が多い。充実度が低下する要因の一つとして登熟期の湿害の影響が大きいことから、冬季に明渠等が埋まって排水を阻んでいるか、排水状況を点検し、手直しを行うことで、速やかに排水を促す。

2 病害虫防除

- ・乳剤、水和剤、フロアブル製剤、ゾル製剤を地上散布する場合は、必ず展着剤を加用する。

(1)オオムギ網斑病

- ・葉色の濃い過繁茂ほ場では、特に注意が必要である。
- ・発生ほ場では、病気がまん延する前にチルト乳剤25(1,000倍、収穫21日前まで、1回)等を散布する(地上散布する場合は展着剤を加用のこと)。

(2)うどんこ病

- ・高温傾向で多発する病害で、現在のところ発生した情報は伝えられていないが、動向に注意し発生を確認した場合は防除を行う。

(3) 赤かび病

- ・赤かび粒に対する検査基準が厳しくなっており、令和6年産において、開花期頃の降雨の影響で本病が多発したほ場が見られたため、天候の推移を注視しながら防除を徹底する。
- ・本病は、出穂期以降の高温(20～27℃)、降雨により発生が助長され、発生すると出荷できなくなるので、すべてのムギで防除の徹底が必要である。また、発病後の防除は困難であるので、下表のとおり適期防除を徹底する。

赤かび病防除対策

	麦種	防除時期	農薬名
1回目	二条大麦	穂揃期の10日後頃	シルバキュアフロアブル または ワークアップ粉剤DL
	六条大麦	開花を始めた時期～開花期	
	小麦	〃	
2回目	二条大麦	1回目散布の7～10日後 (多発生が予想される場合)	トップジンM水和剤 または トップジンM粉剤DL
	六条大麦	1回目散布の7～10日後	
	小麦		

(注)

- ・多発生条件下では、シルバキュアフロアブル、トップジンM水和剤、トップジンMゾル、ワークアップフロアブルおよびミラビスフロアブルの防除効果が高い。
- ・乳剤、水和剤、フロアブル製剤、ゾル製剤を地上散布する場合は、展着剤を加用する。
- ・大麦ではチオファネートメチル剤(トップジンM水和剤、同ゾル、同粉剤DL等)の使用回数は出穂期以降1回以内となっているので注意する。

使用基準(赤かび病)

農薬名	使用量	使用時期	本剤の使用回数
シルバキュアフロアブル	2,000倍	大麦:収穫14日前まで	2回以内
		小麦:収穫7日前まで	2回以内
ワークアップフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内
ワークアップ粉剤DL	3kg/10a		
トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	大麦:収穫30日前まで	3回以内(出穂期以降は1回以内)
		小麦:収穫14日前まで	3回以内(出穂期以降は2回以内)
トップジンMゾル	1,500倍	収穫14日前まで	3回以内(出穂期以降は1回以内)
	1,000～1,500倍		3回以内(出穂期以降は2回以内)
トップジンM粉剤DL	4kg/10a	収穫14日前まで	大麦:3回以内(出穂期以降は1回以内)
			小麦:3回以内(出穂期以降は2回以内)
ミラビスフロアブル	1,500～2,000倍	大麦:収穫14日前まで	2回以内
		小麦:収穫7日前まで	

(4)コムギ黄斑病

- ・赤かび病の1回目の防除時期(開花始～開花期)までに病斑が多数確認される場合は、上位進展前にアミスター20フロアブル等を散布する。
 - ・ワークアップフロアブル等により赤かび病との同時防除を行う。
- ※前作のコムギで本病が多発したほ場及び連作ほ場では、発生状況に注意する。

3 新品種「はるさやか」への転換

ビール麦奨励品種は、令和7年秋播から、旧品種「しゅんれい」を新品種「はるさやか」へ全面転換しました。一般生産と同時進行で、採種ほにおいて原種及び農家播種用種子の増殖を図っており、現時点で順調に生育しています。

二条大麦奨励品種候補「はるさやか」の選定

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

鳥取県で作付けされている二条大麦「しゅんれい」は、収量・品質が安定している一方で、オオムギ縞萎縮病を引き起こすウイルスI～V型の内、Ⅲ型に罹病性である。本県でⅢ型の発生は確認されていないが、近県では発生が相次いでおり、抵抗性品種への切替が最も有効的な対策であることから、I～V型に抵抗性を有し、かつ栽培特性に優れた品種を選定する。

(2) 情報・成果の要約

「はるさやか」は、オオムギ縞萎縮病I～V型に抵抗性を備えており、11月上中旬播きの栽培特性は、成熟期は3日早く、穂数は並、千粒重は大きく、多収で、容積重は大きく、粒張りに優れ、品質は並である。

2 試験成果の概要

「しゅんれい」と比較した「はるさやか」の特性は以下のとおりである。

- (1) 出穂期は6日、成熟期は3日早い(表1)。
- (2) 稈長、穂長は並で、倒伏程度も並である(表1)。
- (3) 穂数は並だが、千粒重が大きく多収である(表1)。
- (4) 容積重が大きく粒張りに優れ、外観品質及び検査等級は並である(表1)。
- (5) タンパク質含有率は1%程度低いが、ビール麦の基準値内である(表1)。
- (6) 現地における栽培特性は、千粒重がやや小さかったもの、その他の項目では、農業試験場内と類似した結果が得られ、穂数がわずかに多く多収で品質は並である(表2)。
- (7) 現地産サンプルを用いた、実需の麦茶加工適性評価は並である(データなし)。
- (8) 2018～2019年のビール会社による製麦・醸造試験の結果に問題はなく、2020年にビール会社の契約対象品種となる「指定品種」に採用されている(データなし)。



図1. 「はるさやか」の株及び穂標本

○農作業事故防止を徹底しましょう！

3月1日～5月31日まで春の農作業安全運動期間です。

安全確認と予防対策で公道での農機による死亡事故を防ぎましょう！

安全フレーム、安全キャブ付きトラクターを使用し、低速車マークの設置、シートベルト・ヘルメット着用を徹底しましょう。



トラクター等の整備不足や操作ミスが転落・横転・追突の事故を引き起こします。

農林水産省の最新の調査データによると、近年300人前後の方々が農作業中の事故で亡くなっています。

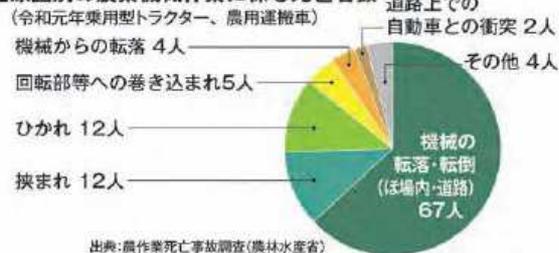
グラフからもわかるように、農作業中の死亡事故は一般交通事故の約7倍、建設業の約3倍にも及びます。

農機事故を未然に防ぐために備えるべき機器(ランプ等)や操作時の安全確認と予防対策をもう一度考えてみましょう。

■10万人あたり事故死亡者数の推移



■原因別の農業機械作業に係る死亡者数



公道での農機による交通事故の要因と対策



事故発生の要因

公道での農機の交通事故は大きく分けて**単独事故**と他の車両からの**追突事故**の2種類があります。

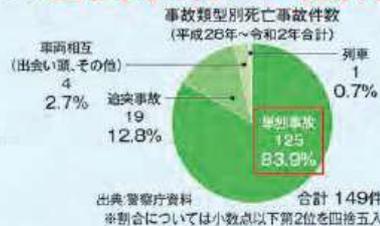
単独事故

1.用水路等への転落

運転操作ミスや道路環境が悪いことにより、田畑や用水路等へ転落。

2.傾斜地での横転等

農機は通常の車に比べ重心位置が高いため傾斜地等でバランスを崩して横転。傾斜地等で自然に動き始めた農機にひかれる事故。



追突事故

夜間等における追突

夜間は後続車から農機が発見されにくく、追突事故が起こる。昼間のトンネル内でも追突事故の事例がある。



事故を防止するには

事故防止の対策

公道での農機による交通事故対策の**3つのポイント!** 対策と準備が重大な事故を防止します。

ポイント1 確実な運転操作とブレーキ連結の確認

農機による死亡事故は、ハンドルやブレーキ操作ミスによる単独事故が多いため、道路状況等に応じた確実な運転を行いましょう。道路走行時は必ず左右のブレーキを連結しましょう。農作業前後に道路上を走行する際は、ブレーキ連結をしていないと、ブレーキを踏んだときに急旋回して転落、横転する事故につながる恐れがあります。

ポイント2 安全キャブ・フレームの装着とシートベルト・ヘルメットの着用

救命効果の高い安全キャブやフレームが付いているトラクターを利用しましょう(安全フレームは倒さずに使いましょう)。農機による交通事故においても、シートベルト着用の有無により死傷状況が大きく異なります。トラクター等の農機運転中は必ずシートベルトを着用しましょう。また、ヘルメットの着用にも努めましょう。
※車種によっては取り付けられないものもあります。



ポイント3 ランプ類や低速車マーク等の取り付け

一般車両との接触や追突を防ぐためには周囲に気づいてもらうことが大切です。「低速車マーク」や「反射板」を設置しましょう。また、作業機を付けて公道を走行するためには、基本的にランプ類の増設等が必要です。



農林水産省

警察庁

JA共済